

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	環境振動予測解析小委員会	主 査 名：田中 靖彦 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：国松 直
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・環境振動予測に必要な情報の集約化・共有化を図り、予測精度の向上に役立てるといふ前身の小委員会の目的を継承し、環境振動問題の改善に寄与する。 ・初年度：1996～2014 年度の大会梗概の要約シートを作成して現状の技術動向や技術課題をまとめ、環境振動運営委員会傘下の委員に配布する。 ・2 年度：予測解析の技術課題から特に優先すべき技術（例えば、予測の精度向上、簡便化など）を抽出し、具体的な予測解析手法の検討を行う。 ・3 年度：2 年度の検討内容を深め、技術資料を編集する。 ・4 年度：以上の検討結果をまとめ、シンポジウムや大会投稿などで公表する。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし	
	主査：田中靖彦（安藤・間） 幹事：山中祐一（ジェイアール東日本建築設計事務所） 委員：石橋敏久、岩田克司（エイト日本技術開発）、片迫幹男（日本設計）、嘉村武浩（北海道日建設）、佐野泰之（愛知工業大学）、鈴木健司（清水建設）、秦 一平（日本大学）、林 健太郎（ベネック振動音響研究所）、洞 宏一（特許機器）、増田圭司（フジタ）、三輪田 吾郎（大林組）、森下真行（前田建設工業）、吉岡宏和（竹中工務店）	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2015 年度予算	45,000 円	ホームページ公開の有無：有（運営委員会 HP の一部） 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 計画通り 1996～2014 年度の大会梗概の要約シートを作成し、現状の技術動向や技術課題を部分的にまとめ、環境振動運営委員会傘下の委員に配布した。 2. 小委員会以外から環境振動予測の問題点（実務者が困っていること）を抽出するためのアンケート調査を実施（1～2 月）し、次年度の検討につなげた。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員が保有する予測精度向上等に関する情報の多くは、公表できない情報であり、最終年度に会員へ公表できる技術資料の内容をどのように構成するかが課題となっている。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	初年度として、当初の計画を上回る成果が得られたため、総合評価をAとした。 具体的には以下の通りである。 ・計画通り 1996～2014 年度の大会梗概の要約シートを作成し、現状の技術動向や技術課題を部分的にまとめ、環境振動運営委員会傘下の委員に配布した。 ・小委員会以外から環境振動予測の問題点（実務者が困っていること）を抽出するためのアンケート調査を実施（1～2月）し、次年度の検討につなげた。 ・環境振動予測の問題点を議論する上で、各委員からの話題提供を行い、本小委員会の活性化（出席率の増加）が図られた。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。